ダイジェスト版

エムポックス診療の手引き

― クリニック・診療所向け ―

この資料はエムポックスの診療にあまり携わったことのないクリニックや診療所の方々が
エムポックスを疑う患者の対応を行う際にご活用いただくことを目的として作成しています

1 病原体

オルソポックスウイルス属のモンキーポックスウイルス（別名 エムポックスウイルス：MPXV）

2 伝播様式

主な経路	ポイント（外来での要点）
皮膚・粘膜の直接接触	病変（発疹・痂皮）／体液への接触で感染リスク
近距離での飛沫	長時間の対面接触でリスク上昇。
間接接触（寝具・衣類・物品）	汚染物品の共有を避け、適切な処理。
性的接触	性器・肛門周囲病変を含め、曝露歴聴取（渡航歴を含む）が重要

3 臨床像・合併症（外来での見落とし防止）

発熱、リンパ節腫脹、皮疹（疼痛を伴うことあり）
性器・肛門周囲の限局病変のみの場合もある
合併症として細菌の二次感染、眼合併症などに注意

4 クレードⅠ／Ⅱ、無症状病原体保有者

知見が蓄積し、クレードによる致命率や感染・伝播性などの主要な疫学的特性に大きな差はないと考えられ、
クレード別に異なる対応を行う必要はない
ただし、免疫不全がある場合には重症化するリスクが高いことに留意する
無症状でのPCR陽性報告があるが、感染性の評価は限定的である

5 診療の留意点（問診）

【 問診 】 ① 症状（発疹の部位・痛み）
② 曝露歴（接触／渡航／性的接触等）
③ 同居者・濃厚接触者の有無

6 鑑別診断（例）

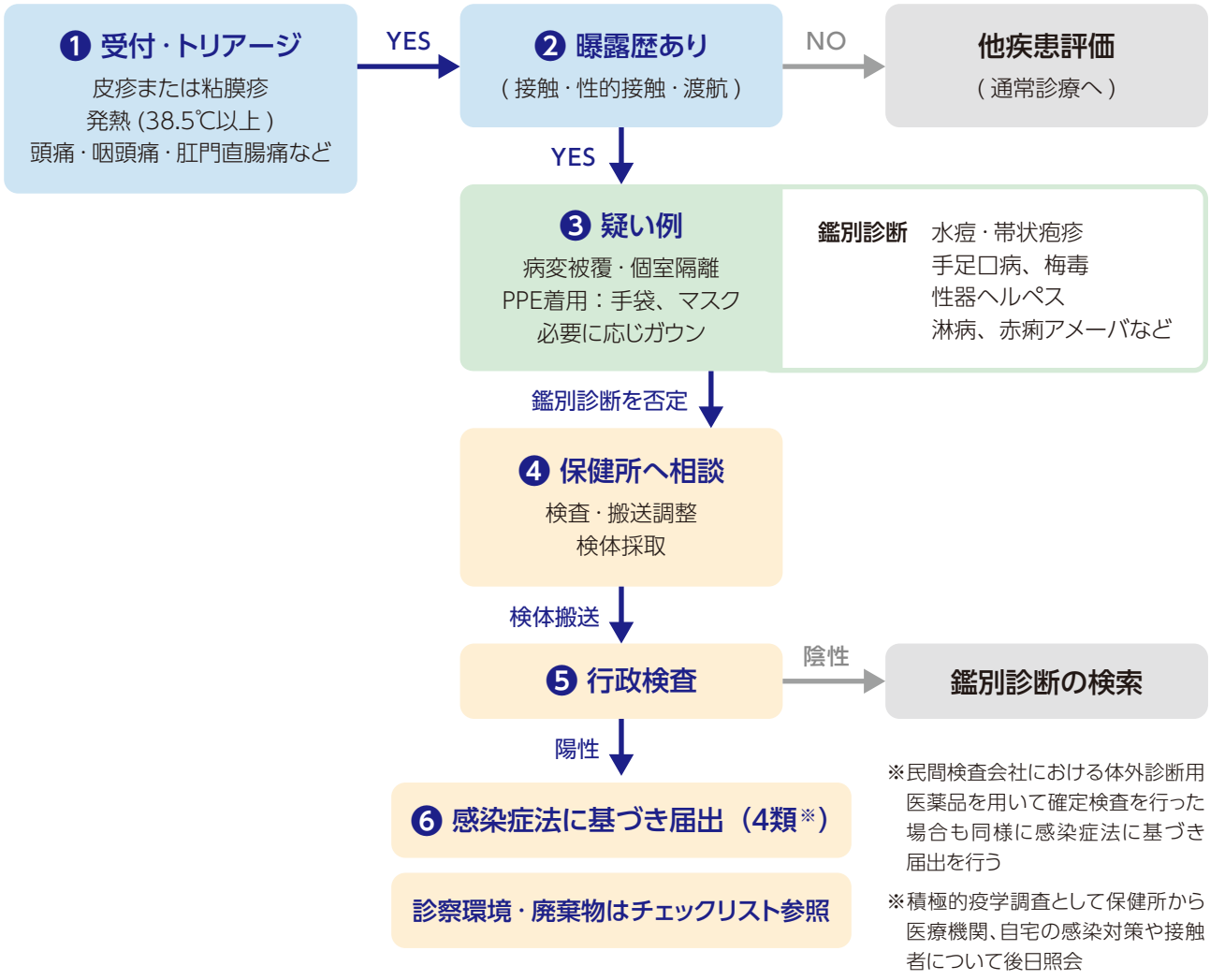
疾患	鑑別ポイント（例）
単純疱疹（性器ヘルペス等）	小水疱の集簇、再発、局所疼痛
水痘・帯状疱疹	皮節性／汎発、既往・免疫状態
梅毒	硬性下疳、全身発疹、血清検査で評価
接触皮膚炎等	感染徴候に乏しい、曝露（薬剤・化学物質）

7 クリニック／診療所における感染対策

- チェックリスト

- ☐ **受付・待合**：疑い例は受付時に不織布マスク着用、病変を覆い、個室へ誘導
- ☐ **PPE**：医療従事者は手袋、不織布マスク
- ☐ **接触予防策**：上記PPEのほか、状況により、ガウン、眼の防護、処置後の手指衛生徹底
- ☐ **環境**：診察後の診察台・高頻度接触面の清拭・消毒、リネン類は振らずにビニール袋へ回収
- ☐ **廃棄物**：汚染物は密閉し、施設ルールに基づき処理
- ☐ **連絡**：保健所へ相談・連携（検査依頼や搬送調整）

- 疑い時対応フローチャート



※民間検査会社における体外診断用医薬品を用いて確定検査を行った場合も同様に感染症法に基づき届出を行う

※積極的疫学調査として保健所から医療機関、自宅の感染対策や接触者について後日照会

8 参考文献

- エムポックス診療の手引き　第4.0版（2026年3月末公開）
- 厚生労働省　エムポックス（2026年3月10日確認）
  https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html
- 認定NPO法人　ぷれいす東京：MPOX GUIDE BOOK
  https://ptokyo.org/eBook/mpox_guide_book/

この文書は、令和7年度厚生労働行政推進調査事業 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 エムポックスの流行拡大に備えた診療・感染管理・医療従事者へのワクチン優先接種指針作成と普及啓発についての研究（代表中村ふくみ）の研究費により作成されたものです。